# 新擬餌（カツオ型ゴム製品）による曳縄釣試験

伊禮勇雄　　※仲間　勲

## 1. 目　的

本県のカジキ釣漁業のほとんどは、生餌（カツオ）を使用しているのが現状である。

しかし、生餌を釣獲する時間や生餌が釣獲されない日などを考えると、その1日を無駄にすることが多々ある。

そこで、これらのことを解消するための一つの手段として、新擬餌（カツオ型ゴム製品）に着目し、今回カジキ・マグロを対象に試みることにした。

## 2. 経　緯

このカツオ型ゴム製擬餌は、静岡県下田市漁協青年部で開発され、昭和54年頃同青年部から試験用として導入し、その後与那国町漁協青年部の川田一正氏が使用したところ、釣獲が確認された。今回、試験操業で使用したカツオ型ゴム製擬餌は製品化された物で、社団法人日本栽培漁業協会企画調査室長・松岡代良氏（元静岡県専技）の協力の賜物であり、この紙面を通しお礼を申し上げます。

(1)　実施漁業　　与那国島西崎灯台よりSW、真方位228°の3.4マイル沖

(2)　実施期間　　昭和58年3月23日

(3)　使用漁船　　第1栄丸（川田一正）2.07トン

(4)　協 力 者　　八重山曳縄研究会　大浜長弘　　八重山漁協青年部　宮里清吉

与那国町漁協青年部　川田一正　　与那国町役場　米城博充

試験漁場は図－1のとおりで、操業方法は道糸にきらせ縄（ヤテイ）を結び、浮魚礁周辺（300 m～500 mの間隔）を船速6マイル～8マイルで施回しながら実施した。

製品化されたカツオ型ゴム製新擬餌は以前のカツオ型ゴム製擬餌よりも一段と色艶があり、曳縄時の泳ぎ方も生餌の弱った泳ぎ方をし、生餌にも引けをとらない物である。

技術改良試験の合間をぬっての試験操業であったので、投縄は3回、釣獲されたのはマグロ（メジ・キメジ）3尾 12.5 kg であったが、ある一定の成果を得ることが出来た。

与那国町漁協青年部長・川田一正氏が一言、この新擬餌にマグロが釣獲されたことで、カジキ釣にも必ず使用出来ると力説してくれた。

## 5. 今後の課題（改良）

今後の漁具の改良点として

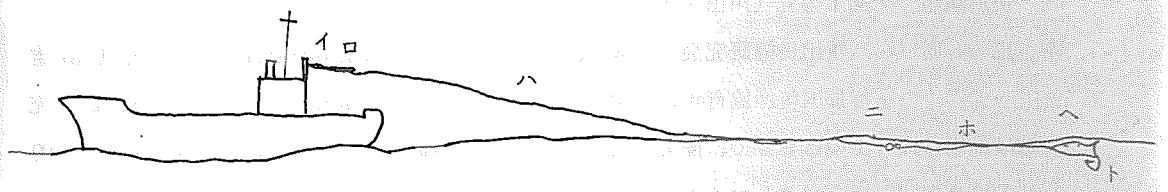
(1)　やや小型なので、もう一回り大型化に改良

(2)　色が少し赤味がかったところがあるので、白色にしてソーダカツオに似せる。

(3)　ゴム製品であるため、口から腹部にかけてのナイロン及びワイヤーを通す穴が大物の喰付きによっては破損のおそれがあるため改良が必要である。

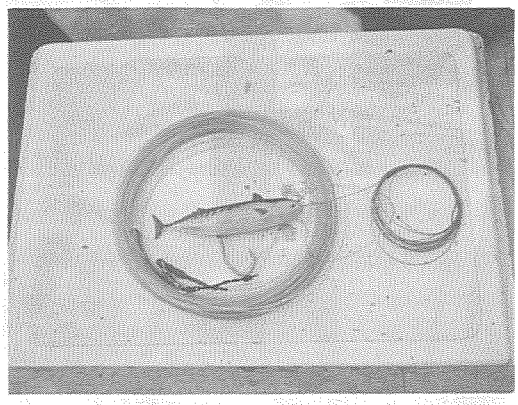
浮魚礁の位置　西崎灯台よりSW真方位228° 3.40マイル
N23°-24.1' E122°-53'

図－1　試験実施漁場図

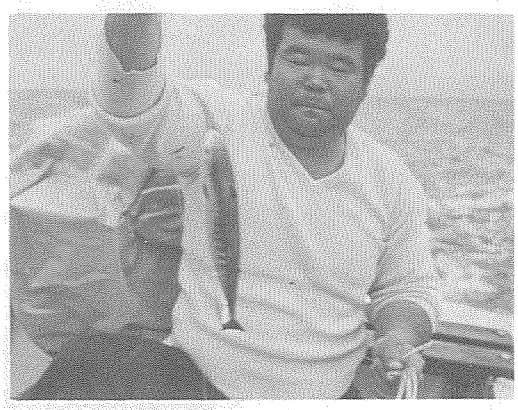



| 品　名 | 材　質 | 規格寸法 | 数量 | 符号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 切らせ縄 | 木　綿 | | 1 | イ | |
| SBLサルカン | シルバー | 12 ㎜ | 1 | ロ | |
| 幹　縄 | ナイロン | 120号　55 m | 1 | ハ | |
| ヘビコークスクリュー | シルバー | 9 ㎜ | 1 | ニ | |
| 幹　縄 | ワイヤー | #30/3+9　6.50 m | 1 | ホ | |
| 擬　餌 | ゴ　ム | 22 cm | 1 | ヘ | カツオ型 |
| 釣　針 | 鋼 | 特　大 | 1 | ト | ケンケン針 |

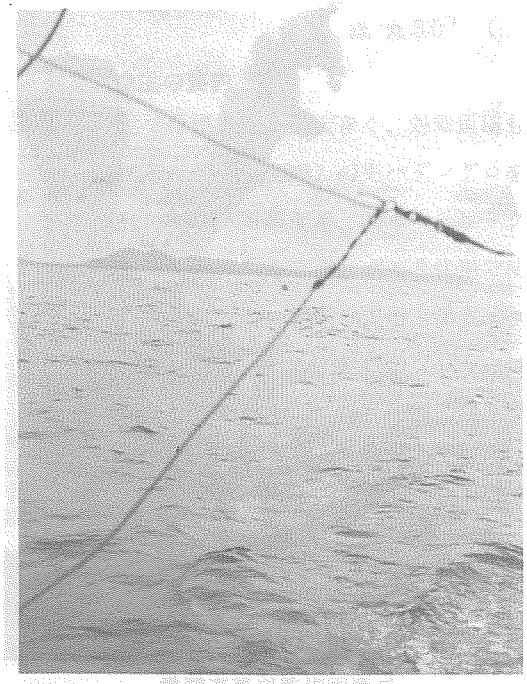
図－2：操業模式図と漁具の仕様



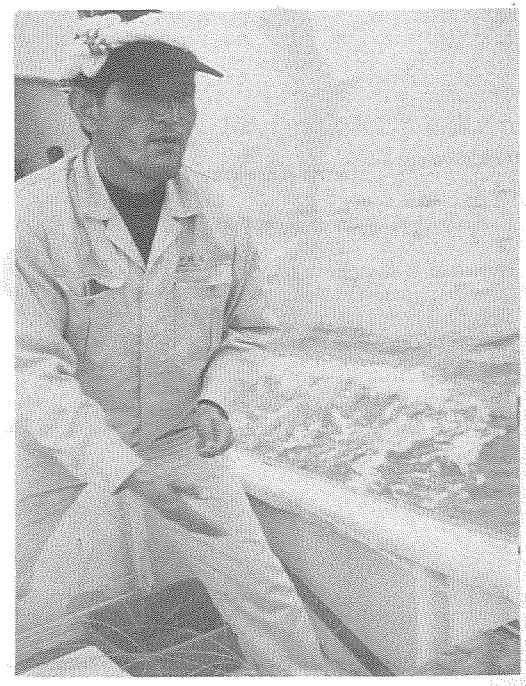
カツオに似た擬餌（ゴム製品）



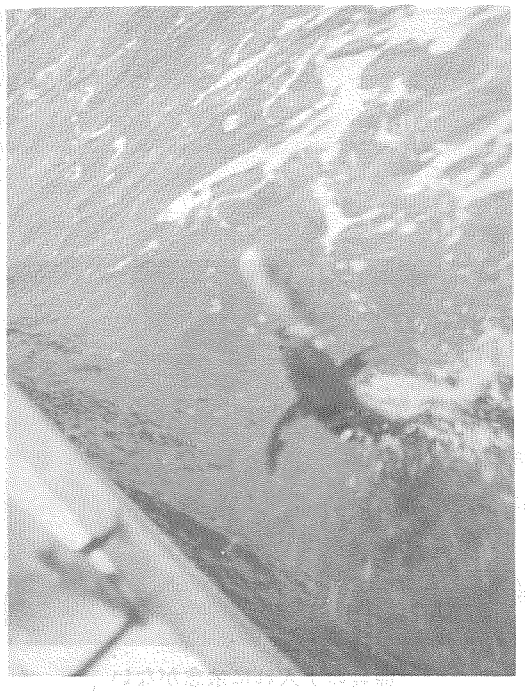
漁具の手入れに余念がない
八重山漁協青年部　宮里清吉氏

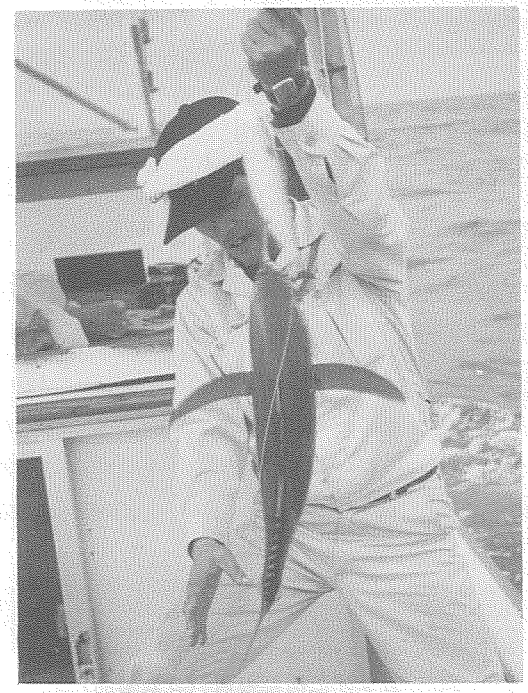


切らせ縄（ヤティ）

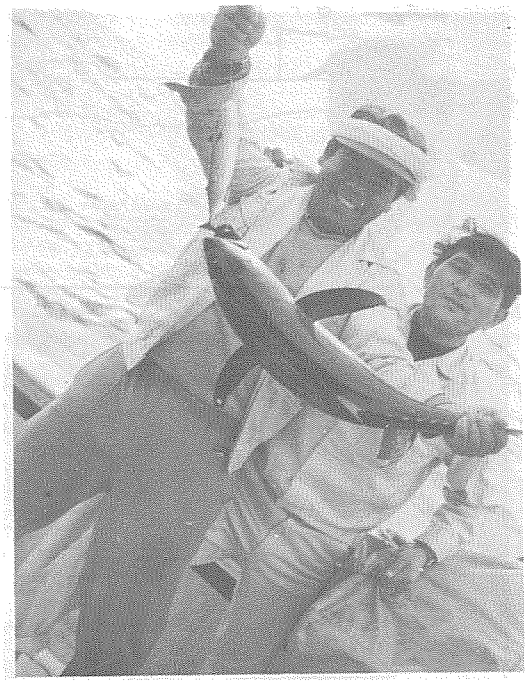


揚　縄（オーイ釣れたぞう）

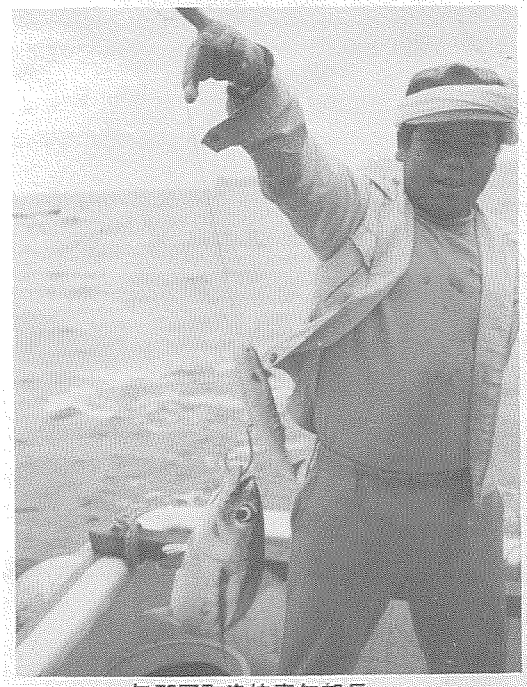




釣獲されたメジ



7kgサイズのキメジ



与那国町漁協青年部長
川田一正氏